

地域振興県土警察常任委員会資料

(平成28年5月31日)

- 1 道路法面の緊急点検について 【道路企画課】……1ページ
- 2 平成28年度GW期間中の鳥取市周辺道路の渋滞状況について 【道路企画課】……7ページ
- 3 GW期間中の山陰道米子東IC付近道路の渋滞調査結果について 【道路企画課】……8ページ
- 4 農業用水路の緊急点検結果について 【治山砂防課】……9ページ
- 5 岩石採取場現地検査について 【治山砂防課】……11ページ
- 6 鳥取港新ポートパーク水上バイク利用試行事業の実施について 【空港港湾課】……12ページ
- 7 「境港を核とした中海・宍道湖・大山圏域における地域経済活性化の取り組み」報告会等について 【空港港湾課】……13ページ

県土整備部

道路法面の緊急点検について

平成 28 年 5 月 31 日
道 路 企 画 課

5 月 4 日に島根県で発生した落石死亡事故を受け、5 月 10 日から県管理道路における法面の緊急点検を実施したので、その点検結果と対応について報告します。

1. 緊急点検結果

○点検期間：平成 28 年 5 月 10 日～5 月 25 日

○点検対象：平成 24 年防災点検で要対策となっている 376 箇所の法面を緊急点検。

道路防災点検結果	要対策	カルテ対応	対策不要	対策済み	計
箇所数	376	863	448	482	2,169

※カルテ対応：防災カルテを作成し監視を行い経過観察

○点検内容：職員により要対策箇所を現地踏査し、不安定な「浮き石」、進行した「岩盤クラック」など、直ちに第三者被害に繋がる恐れのある変状の有無を点検。

○点検結果：

調査箇所数	376	対応状況・予定			緊急対応不要箇所
		点検時対応 (たたき落とし等)	点検後対応予定		
			応急仮工事 (土のう、仮設防護柵等)	法面詳細調査	
箇所数	376	17	69	3	287

2. 点検結果を踏まえた今後の対応

(1) 点検時に対応できた箇所 (N=17 箇所)

➢ 17 箇所において、不安定な浮き石を点検時に撤去。

(2) 応急仮工事が必要な箇所 (N=69 箇所)

➢ 県道智頭用瀬線（鳥取市用瀬町赤波地内）などで浮き石等が確認され、今後落石の恐れがあるため、早期に維持業者により大型土のう、仮設防護柵等を 45 箇所において設置する。

➢ 上記の他、国道 179 号（三朝町木地山地内）など 24 箇所、交通規制を行いながら維持業者により浮き石の撤去を行う。

➢ これらの箇所のうち、災害防除事業未着手で落石の危険性が高く早期対策が必要な県道智頭用瀬線など 4 箇所については、来年度当初から速やかに対策工事に着手できるよう検討する。

(3) 法面詳細調査が必要な箇所 (N=3 箇所)

➢ 法面上部が急斜面で職員による緊急点検が出来なかった国道 482 号（若桜町茗荷谷）、著しい岩盤クラックが確認された県道倉吉福本線（三朝町福本）外 1 箇所の計 3 箇所についてはコンサルタントにより法面詳細調査を実施のうえ、必要な対策を実施する。

3. 要対策箇所 (376 箇所) にかかる今後の対応

① 定期パトロール、異常時パトロール

・定期パトロールにより要対策箇所、カルテ対応箇所を現地踏査し監視を継続。

② 災害防除事業の実施

・落石防護柵、落石防止ネット等による落石対策工事の促進を図り、安全対策を実施していく。

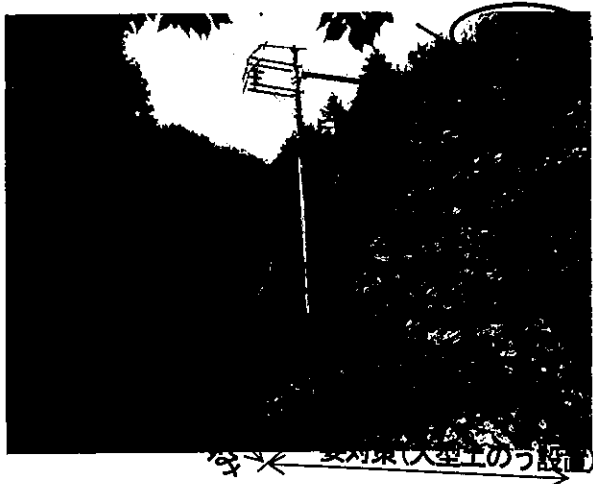
(H27 補正) 防災・安全交付金：事業費 298 百万円、13 箇所（完了予定 1 箇所）

(H28 年度) 防災・安全交付金：事業費 685 百万円、77 箇所（完了予定 8 箇所）

単県事業：事業費 18 百万円、3 箇所（全箇所完了予定）

《緊急点検実施状況》

① 大型土のう設置予定箇所（県道智頭用瀬線：鳥取市用瀬町赤波）



要対策区間法面上部の状況：亀裂の多い岩盤が露出

② 転石除去予定箇所（国道179号：三朝町木地山）



不安定な浮き石が多数点在



③ 法面詳細調査予定箇所（国道482号：若桜町茗荷谷）



要対策区間法面上部の状況：急勾配で点検不可

④ 早期対策に向けた測量設計箇所（県道倉吉川上青谷線：鳥取市青谷町桑原）



道路横の転石の状況



法面上部には多数の不安定な転石が点在

＜参考＞

1. 鳥根県の落石事故の状況

- 発生日時：平成28年5月4日（水）午後3時55分頃
- 場 所：主要地方道浜田作木線（邑智郡邑南町戸河内地内）
- 概 要：県道脇の斜面上30mの高さから直径1メートルほどの落石が発生し、走行中の軽自動車を直撃。強風により立木が揺さぶられ、立木の根元の岩が不安定になり落下したと推測されている。
事故発生箇所は、平成8～9年の法面点検で要対策箇所となっていたが、要対策区間550mのうち500mにネット等の対策工事を行い、残る50mの落石のあった区間は、浮き石を撤去したのみの対応となっていた。
- 被害状況：軽自動車の左側が大破し、助手席の女子大学生が死亡。
- 対応状況：5月4日（水）23:40～6日（金）16:10 全面通行止め
- 緊急点検：5月5日から県管理道路について、平成8・9年に実施の道路防災点検の結果で、要対策となっている2,136箇所のうち、対策が未完了の1,350箇所を緊急点検。
- 落石事故再発防止検討委員会：
落石原因を究明し、当該箇所の対策方法を検討するとともに、再発防止に向けた斜面点検のあり方について検討することを目的に、平成28年5月22日第1回委員会を開催。

2. 鳥取県の昨年度の落石状況

- 平成27年度の落石・土砂崩落箇所数は全県で約50件発生。
- 主な落石は、平成27年10月26日及び平成28年3月19日発生の県道大滝白水線における発生事案2件。その他の事案は、直径5cm～20cm程度の小規模な落石。

3. 鳥取県の法面点検の経緯

- 道路防災点検
 - ・阪神淡路大震災を受けて、平成8年に実施。
 - ・その後、西部地震を受けて平成13年に米子・日野管内の再点検を実施。
 - ・平成24年に事前通行規制の見直し検討のため、全県で点検を実施。

邑南の県道

車に落石 女子学生死亡

運転の 直径1メートル 助手席側大破

4日午後3時55分ごろ、鳥根県邑南町戸河内の県道182号のり面から直径約1メートルの落石が落下し、広島市安佐南区住東7丁目、会社員栗原浩美さん(29)の軽自動車に落下した。左側面が大破し、助手席の長女で山口市平井、大學生栗原さん(16)が全身を強く打ち、搬送先の病院で死亡が確認された。浩美さんが頭に軽いつけがを負った。

川本署によると、車には2人が乗っており、広島県三次市方面から邑南町側へ那方面に向かっていた。現場は緩やかな右カーブで、落石は約1メートルの高さ4メートルの位置に設置された道路を管理する鳥根県史貝土監査事務所によると、高さ4メートルの位置に設置されていたガードレールを突き破って落下した。落石防止用ネットは張り付けていなかった。



落石の影響で助手席側が大破した軽自動車＝4日午後4時55分、鳥根県邑南町戸河内(画像を一部加工しています)

現場では、日傘から探夜にかけて雨が降っていたと見られる。近くの農業松田節雄さん(69)は「ドスン」という鈍い音がした。降雨後は道

路に小石が落ちていて、危がある。二度と起きないよう、対策をしっかりと取ってほしい」と話した。(杉原一成)

落石危険13カ所 鳥根県が緊急点検 落石事故を受けて鳥根県は4日、県が管理する道路で落石の危険性がある約13カ所について緊急点検する方針を固めた。今回の事故現場を含め、

5日から職員が目視などを、異常を確認した場合はより詳細な点検を実施する。県道維持課の山崎泰助課長は「危険箇所には速やかに対策を施したい」と話した。

落石事故受け安全点検

中国地方 山口・鳥取も緊急実施へ

鳥根県邑南町の県道で4日に起きた落石死亡事故などを受け、中国地方の5県と政令市が、道路沿いの危険箇所の点検や安全対策を進めている。鳥根、山口、鳥取の3県と広島市が緊急点検の実施を決め、岡山県も検討している。広島県は福山市で昨年7月に起きた国道のり面の崩落後に着手した危険箇所の点検を終え、防護ネットの設置を急

25日開始 鳥根県は事故後5日の5日と6日に県管理の県道と国道計約3千キロを緊急点検した。北海道の国道トランスル崩落事故を機に行った1996、97年の全県調査で危険とした、1350カ所は現地を職員が歩いて点検した。県によると45カ所が落石や倒木が見つかった。落石はほとんどが直径約15センチだが、直径40センチの石が防

山口県は9日、県道や県が管理する国道のり面に落石の危険性があるかどうかを点検するよう、県内8つの土木建築事務所に指示した。10日にも始め、6月上旬までに終了予定。対象は落石の危険が高い58カ所。重大事故につながる恐れがある浮き石の有

無などを職員が歩きながら目視で確認する。県道維持課は「緊急性の高い箇所があれば改修していききたい」と話す。

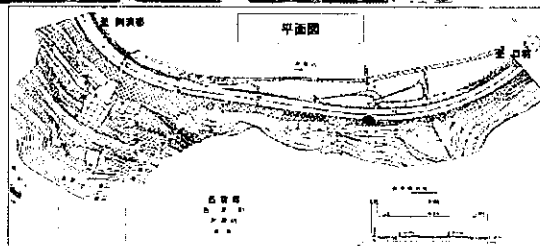
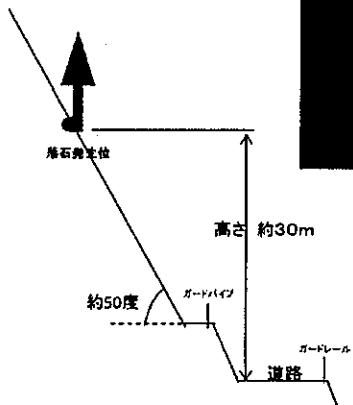
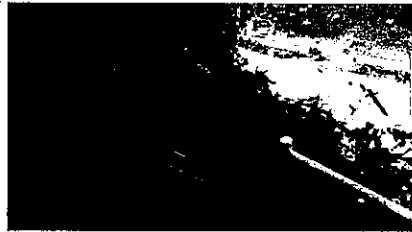
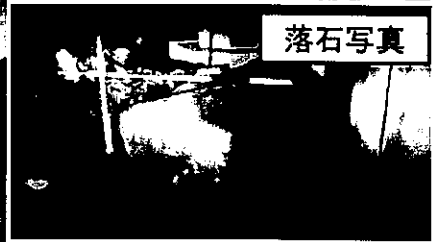
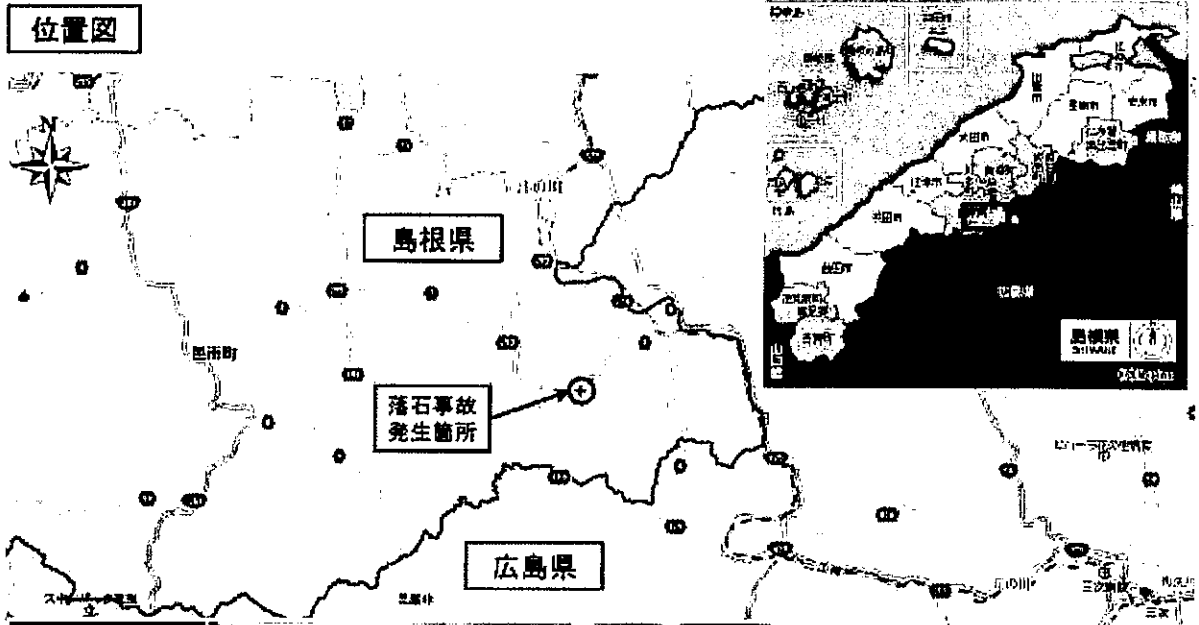
鳥取県も危険度が高いとされる376カ所について今月中旬、緊急点検に着手する。広島市は近く、職員による目視点検を始める。同市は危険箇所数を公表していない。危険箇所が1310カ所ある岡山県は、危険度に応じて2カ月、1年に1度実施する定期点検を強化する検討に入っている。岡山市は未定としている。

広島県は昨年7月に福山

市の国道182号で起きたり面崩落を受け、同県10月に危険度が高い県内399カ所を緊急点検した。計536カ所の危険箇所のうち、交通量の多い道路沿いで落石防護ネットの設置を進めている。

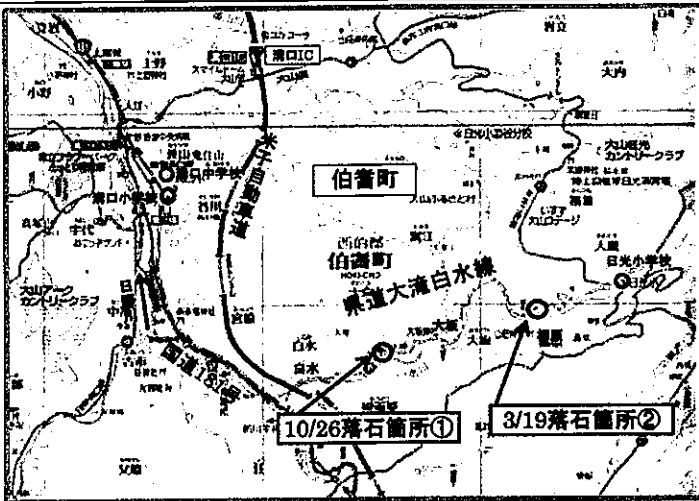
平成28年5月4日

県道における落石事故について

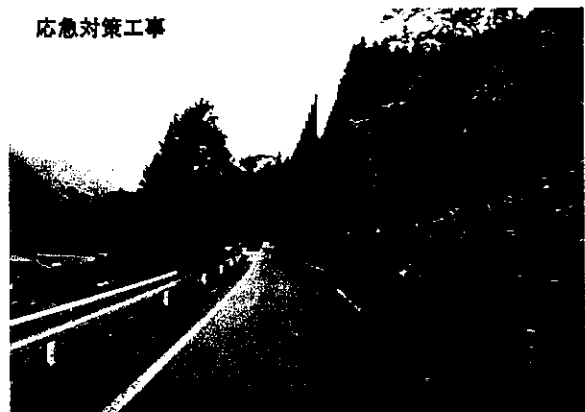
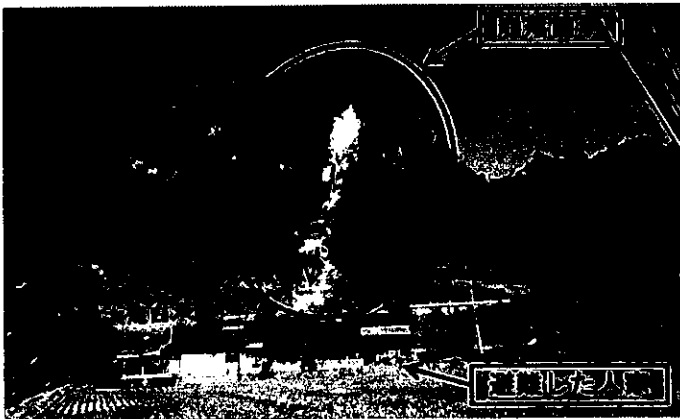
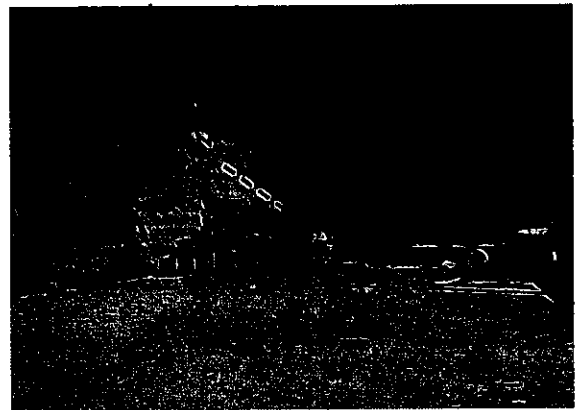


平成27年度 県道大滝白水線の落石状況

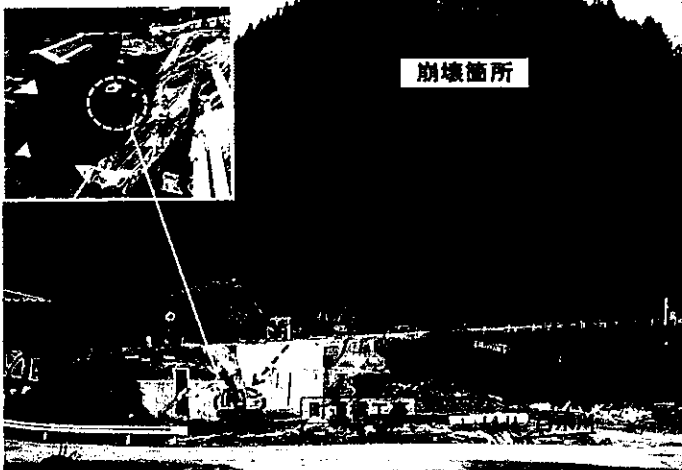
発生日時	①H27.10.26	②H28.3.19
場所	西伯郡伯耆町大坂	西伯郡伯耆町大滝
被害状況	人的被害、孤立集落なし	
落石状況	直高約100mの斜面上部の岩盤が崩落し、最大1m程度の巨レキ(角礫凝灰岩)が大小10~20個程度落下	直高約40mの斜面上部の岩盤が崩落し、直径2m程度の巨石1個及び数10cmの石や土砂が無数に落下
応急対策	仮設防護柵(H=6m)L=40m 大型土のうL=100m	仮設防護柵(H=6m)L=70m 大型土のうL=130m
法面詳細点検	2度にわたる崩落状況から、路線全体に同様な崩落危険箇所が存在する可能性があるため、コンサルタントにより路線全体の詳細調査を4月から実施中。※6月末調査完了予定	
本復旧予定 (交付金災害防除)	<ul style="list-style-type: none"> ●詳細設計:H28.1月~8月末予定 【用地買収あり】 ●用地測量・交渉:~H28年度末 ●対策工事:H29年度~ 【用地買収なし】 ●対策工事:H28.10月~ 	<ul style="list-style-type: none"> ●地形測量・詳細設計:~H28年度末 【用地買収あり】 ●用地測量・交渉:H29年度上半期 ●対策工事:H29年度下半期~ 【用地買収なし】 ●対策工事:H29年度~



① H27. 10. 26落石



② H28. 3. 19落石



平成28年度 GW 期間中の鳥取市周辺道路の渋滞状況について

平成 28 年 5 月 31 日
道 路 企 画 課

例年、鳥取市周辺渋滞対策検討協議会でゴールデンウィークにおける鳥取砂丘周辺の渋滞対策に取り組んでいるところですが、今年度のゴールデンウィークに鳥取市周辺で発生した主な渋滞について報告します。

なお、砂丘周辺の渋滞結果を基に協議会で渋滞の検証、改善策を検討します。

※鳥取市周辺渋滞対策検討協議会・・・鳥取県、県警察本部、中国地方整備局鳥取河川国道事務所、鳥取市

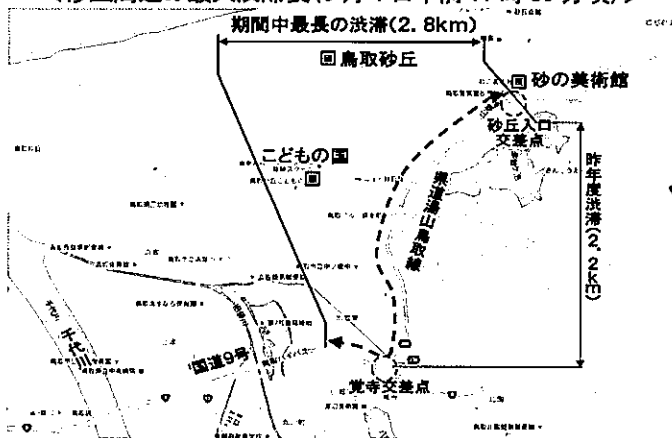
1 鳥取砂丘周辺

○砂丘周辺へ観光に向かう車両による渋滞は、5月4日（水・祝）に県道湯山鳥取線で午前10時30分頃から午後3時30分頃にかけて継続的に2.0 km以上発生しました。

○同日、午前11時30分には期間中最長となる2.8 km（砂丘入口交差点～国道9号覚寺分岐付近）の渋滞となりました。（昨年は覚寺ランプ手前まで約2.2 kmの渋滞）

○1 kmを超える渋滞は、その他の日では発生しませんでした。（昨年は5月5日に発生しました。）

＜砂丘周辺の最大渋滞長(5月4日午前11時30分頃)＞



＜砂丘周辺施設の入込客数(5月3日～5日)＞

(単位:人)

観光施設	年度	5月3日	5月4日	5月5日	合計	対前年比
鳥取砂丘	H28	11,499	21,808	14,757	48,064	73.5%
	H27	24,358	16,652	24,394	65,404	
砂の美術館	H28	6,664	9,601	4,945	21,210	79.0%
	H27	9,521	7,314	10,024	26,859	
鳥取砂丘 こどもの国	H28	1,703	6,088	4,201	11,992	87.6%
	H27	5,062	2,205	6,419	13,686	
合計	H28	19,866	37,497	23,903	81,266	76.7%
	H27	38,941	26,171	40,837	105,949	

(鳥取市周辺渋滞対策検討協議会の渋滞対策概要)

- ・混雑箇所の迂回を誘導する道路情報チラシ(6,800部)を周辺の道の駅、観光施設で配布
- ・周辺のコンビニエンスストアで混雑箇所の迂回を誘導する道路情報ポスターの掲載
- ・国道、県道に混雑箇所の迂回を誘導する現地誘導看板の設置
- ・各機関で迂回を誘導するホームページの公開

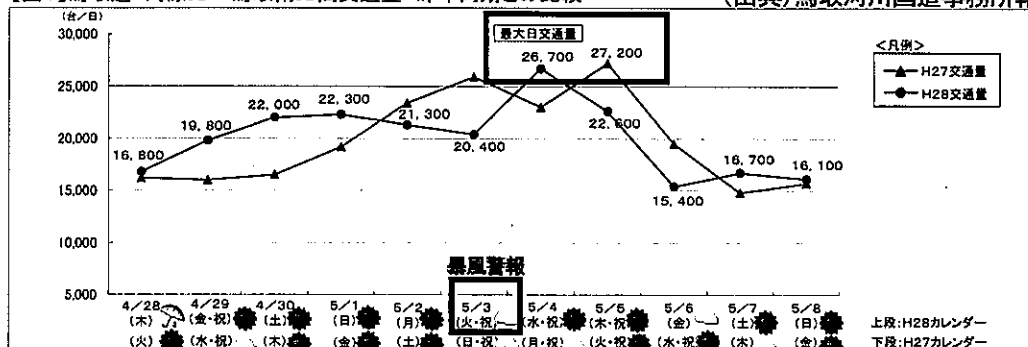
2 鳥取自動車道

○1 kmを超える渋滞は5月4日（水・祝）、5月5日（木・祝）に計3回発生しました。

○5月4日夕方から夜にかけて、期間中最長となる約9 kmの渋滞が智頭IC～河原IC間で発生しました。（上り：姫路方向を先頭とした渋滞）

【図1】鳥取道 河原IC～鳥取南IC間交通量 昨年同期との比較

(出典)鳥取河川国道事務所報道発表資料



GW 期間中の山陰道米子東 IC 付近道路の渋滞調査結果について

平成 28 年 5 月 31 日
道路企画課
警察本部
(交通部交通規制課)

今年の県議会 2 月定例会で実施予定としていた「山陰道米子東 IC 付近の交通渋滞調査」について、ゴールデンウィーク期間中に、県土整備部と県警本部で連携し現地調査等を実施しましたので、その調査結果について報告します。

1 調査(対応)概要

調査日時：4月30日(土)、5月4日(水・祝)の午後1時～午後7時

調査(対応)内容：(道路管理者)交通量調査、滞留長調査、信号現示調査

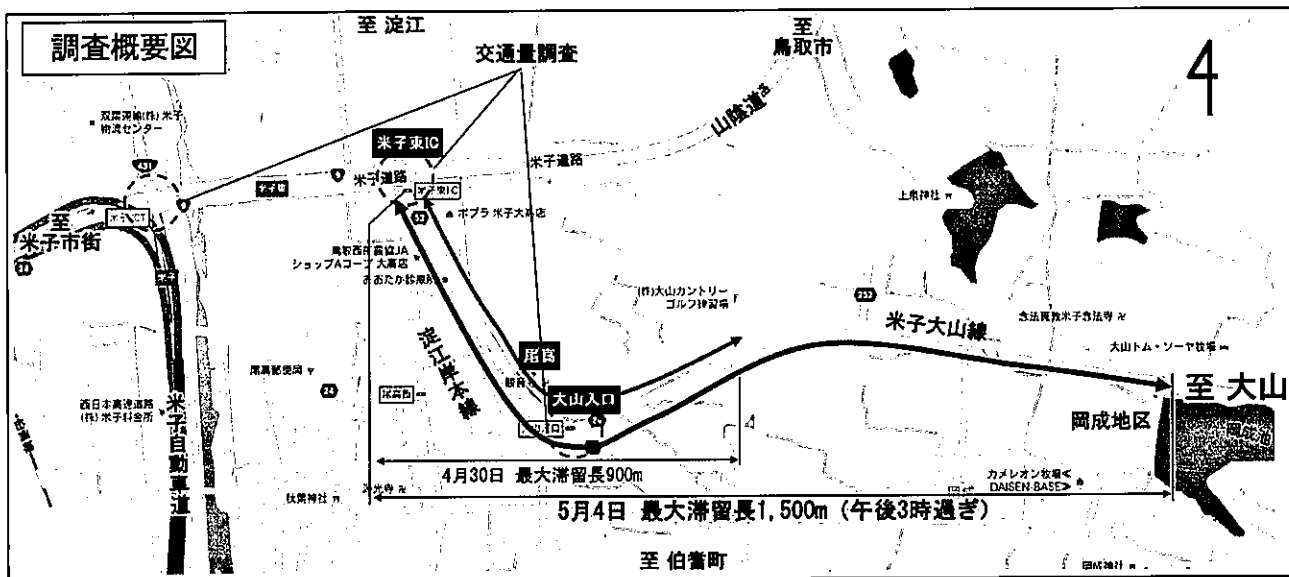
：(県警本部)米子東 IC 交差点等の信号現示調整

調査結果：①4月30日には、午後2時から午後5時にかけて、米子東 IC 交差点を先頭に大山方面に継続して約 700m の渋滞が確認された。(最大 900m)

②5月4日には、午後1時から午後5時にかけて、米子東 IC 交差点を先頭に大山方面に継続して約 1,000m の渋滞が確認された。(最大 1,500m)

③県警本部において、渋滞の先頭である米子東 IC 交差点の信号現示について、県道淀江岸本線を優先するよう調整を行った。

⇒結果、県道淀江岸本線において、有効な渋滞緩和対策とならなかった。



2 今後の対応

○観光シーズンのピーク時の交通量を他路線へ分散させる誘導看板(米子道・山陰道利用者を手前の県道名和岸本線等で迂回誘導するなど)、大山周辺観光施設での誘導チラシの配布等のソフト対策の検討を行う。(道路管理者、県警本部等)

○山陰道米子東 IC 交差点から米子 IC へ向かう(左折)車両が多く確認(約 40%)されたため、左折レーン設置の検討を行う。(道路管理者)

農業用水路の緊急点検結果について

平成28年5月31日
農地・水保全課
治山砂防課

平成28年1月25日に日南町三吉地内で発生した土砂崩れによる事故を受けて行った農業用水路の緊急点検の結果について報告します。

1 経緯等

- ・1月25日に日南町三吉地内で発生した土砂崩れにより、土砂が民家に流れ込み3人の方が死傷された。
※小水力発電施設の導水路が雪塊によりせき止められ溢水したのが原因と推測されている。
- ・県は、この事故を受け、2月上旬に農業用水路を所有・管理する市町や土地改良区に、土砂災害警戒区域内(6,063区域)にある水路の緊急点検を依頼した。
- ・県や市町村、水路管理者等による現場点検が4月末に完了した。

2 点検結果

(1) 点検対象箇所

土砂災害警戒区域(イエロー区域)内に位置しており、溢水等の場合に人家等に影響が生じる恐れがある農業用水路施設

(2) 点検方法

水路の通水阻害等(溢水、倒木や落石、落雪の有無等に着目)の確認を行う。

(3) 土砂災害警戒区域内の水路の特定結果

全体区域数	水路有区域数	全体水路数	※ 人家等に影響 がある水路数	左の内常時 通水水路数
(区域)	(区域)	(路線)	(路線)	(路線)
6, 063	2, 274	2, 388	1, 081	607

※斜面上部又は中腹部に水路があり、溢水等で人家等に影響が生じる恐れのある水路

(4) 点検結果

- ・かんがい期のみ通水する水路では、一部土砂堆積や落石が認められたが、かんがい期(通水)までには撤去された。
- ・常時通水している水路では、適正な管理がなされており、通水阻害を生じるような土砂堆積や落石等は認められなかった。

3 今後の対応

今回の点検結果を基に、土砂災害警戒区域内の水路で溢水等により人家等に影響が生じる恐れのある農業用水路について、県・市町村及び水路管理者が連携し、水路の管理体制強化を図っていく。

- ① 今回の点検結果について、県関係部局間で情報の共有化を図るとともに、市町村や土地改良区等に情報を提供する。
- ② 県が開催する研修会等、様々な機会を活用して水路管理の徹底を呼びかけていく。
※市町村や土地改良区、多面的機能支払の活動組織を対象とした研修会等で、水路管理の徹底と危険箇所の応急対策等について指導する。(5月末までに4回実施)
※県が市町村等に発出している「防災体制強化について」の通知を、洪水期(6月)や融雪期(3月)に加えて、新たに降雪期(12月)の前にも行い注意喚起を図る。
- ③ 県の「開水路の簡易点検マニュアル」(H20.3作成)に、降雪期や非かんがい期にも水路点検を行うことや、水路点検を行う上での着眼点について追記するとともに、本マニュアルを市町村や水路管理者に配布し、水路管理の強化を指導していく。
- ④ 土砂災害警戒区域について、日頃から気象情報や防災情報に留意し、災害を未然に防止するとともに、緊急時の情報連絡網の整備や取水停止などが速やかに行えるような体制を構築するよう、市町村や水路管理者に働きかけていく。

市 町 村 別 内 訳 表

市町名	全体区域数	水路有区域数	全体水路数	※	左の内常時 通水水路数
				人家等に影響 がある水路数	
合計	(区域) 6,063	(区域) 2,274	(路線) 2,388	(路線) 1,081	(路線) 607
鳥取市	1,611	249	252	84	51
岩美町	223	12	12	6	4
若桜町	190	88	88	22	12
智頭町	484	263	263	168	127
八頭町	404	40	40	39	10
倉吉市	495	336	351	62	51
三朝町	364	285	285	219	102
湯梨浜町	169	150	150	10	0
琴浦町	151	94	109	66	15
北栄町	89	40	45	6	4
米子市	194	75	108	49	2
大山町	113	10	10	3	1
南部町	342	122	122	84	61
伯耆町	217	6	6	5	5
日南町	608	317	317	88	49
日野町	268	132	160	117	80
江府町	141	55	70	53	33

※斜面の上部又は中腹部に水路があり、溢水等で人家等に影響が生じる恐れのある水路

岩石採取場現地検査について

平成28年5月31日
治山砂防課

県内の岩石採取場の安全性と、隣地及び周辺環境への影響及び採取計画に沿った採取がされているか等について実施状況を点検し、問題のある箇所については、適正な岩石採取となるように指導を行う等、岩石採取に伴う災害を防止することを目的に岩石採取場の現地検査を次のとおり実施しています。

この一斉点検は、平成15年度から出水期前に実施していますが、奈良県の土砂大量掘削の事件を念頭に置いて、厳正に検査を実施します。

1 検査対象

現在稼働中の採石場 28箇所（昨年度：29箇所）
廃止後2年以内の採石場等 5箇所（昨年度：7箇所）

2 検査期間及び検査箇所数

検査日	検査箇所	箇所数
5月17日(火)	八頭県土整備事務所管内	3箇所
5月18日(水)、19日(木)	中部総合事務所管内	5箇所
5月24日(火)、25日(水)	日野振興センター管内	4箇所
5月26日(木)、27日(金)	米子県土整備局管内	7箇所
5月31日(火)～6月2日(木)	鳥取県土整備事務所管内	14箇所
	計	33箇所

3 検査方法

(1)検査体制

各総合事務所等の維持管理課長を班長として、事務担当、技術担当及び本庁治山砂防課採石担当で構成する検査員が、現地で検査を行う。

(2)検査内容

認可計画、認可条件の遵守及び安全対策の状況等

(3)指導方法

改善すべき事項については、書面により指示する。

採取計画の遵守義務違反が確認された場合は、書面により指導又は措置命令等を行う。

4 検査結果

今回の検査結果については、とりまとめ次第、常任委員会に報告する。

(参考：平成27年度の検査結果)

- ・採石法第33条の13第2項に基づく措置命令（1件）
認可期間終了時に緑化、排水路工が未施工のもの（平成27年10月16日改善済み）
- ・行政指導（14件）
岩石採取標識の記載誤り、緑化措置の適期施工、作業に当たっての注意等

5 岩石採取場の指導監督の主な取り組み

- ・県内岩石採取場の一斉現地検査（平成15年度から出水期前に年1回）・・・**今回実施**
- ・鳥取県採石条例の施行（平成16年4月）・・・指導基準の明確化、指導の強化
- ・採石場安全対策審議会の設置（平成17年7月）・・・認可計画の審議を地質、環境等の専門家で行う。
- ・県内採石場のヘリコプターによる現地上空調査（年2回：出水期前[4月25日・26日連続]、降雪期前）
- ・各総合事務所等による岩石採取場の点検・指導（毎月）

鳥取港新ポートパーク水上バイク利用試行事業の実施について

平成28年5月31日
空 港 港 湾 課

水上バイクの利用希望がある鳥取港千代地区（新）ポートパークについて、利用率向上にも資するものであることから、現在利用できない水上バイクの利用について下記のとおり試行を行い、利用の可否について検討します。

1 これまでの経緯

- (1) 平成16年 8月 千代ポートパーク整備・供用開始
※水上バイクの利用不可
- (2) 平成27年11月 千代ポートパークのジェットスキー利用要望
- (3) 平成28年 2月 水上バイク利用試行について関係者説明会実施
- (4) 平成28年 3月 千代ポートパーク利用者アンケート調査実施
(試行事業実施 賛成57.8% 反対42.2%)

鳥取港ポートパーク

2 試行内容

(1) 期間

平成28年6月1日（水）から
7月31日（日）まで（2ヶ月間）

(2) 利用可能時間

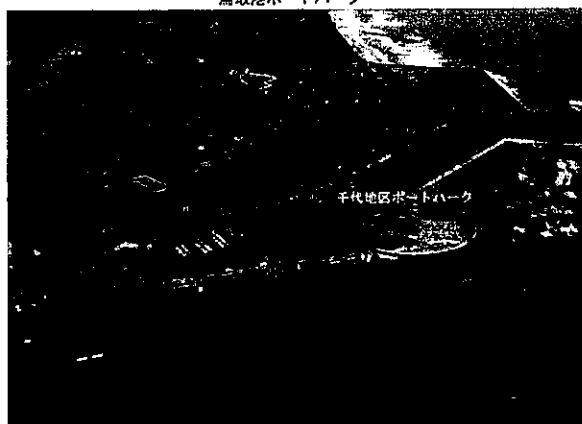
午前8時から午後6時まで

(3) 利用方法

ア 希望者が、事前に港湾事務所に
使用申請

イ 許可の期間は、1ヶ月単位

ウ 予定台数38区画114台まで（使用料1区画5,000円/月）



3 試行のための条件整備

円滑な試行のため、試行期間中、港湾事務所（ポートパーク）に指導員を配置します。

(1) 指導員配置時間

午前8時から11時まで及び午後1時から午後6時まで

(2) 指導員の業務

- ・利用規程の遵守指導
- ・車両登録確認等安全指導
- ・スロープの利用指導
- ・ポートパーク内での利用者の誘導、整理

4 試行後の対応

試行の結果を踏まえ関係者と協議を行い、利用の可否について検討します。

〈参考〉

ポートパーク利用率 53.8%（平成27年度：陸域98/182区画）

「境港を核とした中海・宍道湖・大山圏域における地域経済活性化の取り組み」報告会等について

平成28年5月31日

空港港湾課

境港管理組合

中海・宍道湖・大山圏域を、物流及び人流の面から活性化させることを目的に、平成26年2月「みなとを核とした官民連携による賑わいづくり計画」を策定しました。

昨年7月には産学金官で構成する「境港流通プラットフォーム協議会」を設立し、境港～北九州ひびき港内航試験輸送（SEA&RAIL）及び国内物流基礎調査を実施するなど、内航定期 RORO 船就航に向けて取り組んでいる。また、大型クルーズ船の誘致にも積極的に取り組み、今年は、過去最高を記録した昨年を大きく上回る寄港回数35回、旅客数4万人を見込んでいます。

このような境港を核とした地域活性化の取組状況や今後の進展について、関係者間の情報共有と理解を深め、活動の深化につなげていくことを目的に、「境港を核とした中海・宍道湖・大山圏域における地域経済活性化の取り組み」報告会を開催するとともに、「境港流通プラットフォーム協議会」第2回総会を開催したので報告します。

1 「境港を核とした中海・宍道湖・大山圏域における地域経済活性化の取り組み」報告会

日時：平成28年5月7日（土）午後1時から午後2時30分

場所：夢みなとタワー 3階 シアタールーム

参加者：国会議員、境港管理組合協議会議員、境港市議会議員、
境港流通プラットフォーム協議会会員、経済界、
行政関係者など 約200名

(1) 基調講演

「外国客船クルーズの現状と今後の展開」

(株)カーニバル・ジャパン猪股営業部長

世界的なクルーズ人口の増加にともなう日本へのクルーズ船寄港の増加状況や今後の予測など、拡大するクルーズ市場について講演。

(2) 報告

- ・「境港～北九州ひびき港 内航船試験輸送（SEA&RAIL）」日本通運株式会社松江支店大塚次長
- ・「境港流通プラットフォーム協議会の取り組みと今後の展開」境港流通プラットフォーム協議会堀田会長
- ・「境港ふ頭再編改良事業～竹内南地区岸壁～進捗状況」中国地方整備局境港湾・空港整備事務所成川所長
昨年実施した内航試験輸送の状況や、平成32年度までの日本海定期航路の開設目標などを報告。



2 「境港流通プラットフォーム協議会」第2回総会

日時：平成28年5月7日（土）午後3時30分から午後4時30分

場所：境港商工会議所 3階 大ホール

参加者：境港流通プラットフォーム協議会会員など 約60名

(1) 議題

【境港流通プラットフォーム協議会の取組状況】

- ・分科会の取組状況（鳥取県）

今年度から始動する「国際物流分科会」による国内広域集荷による DBS 活用の可能性調査、及び「物流・取引環境改善分科会」による圏域企業による小口・混載貨物の国内 RORO 船活用の可能性調査について説明。

- ・物流基礎調査の結果報告（中国地方整備局）

潜在的貨物量（海上へのシフト）の試算などを説明。

- ・内航試験輸送の取り組みと今後の予定（境港管理組合）

今年6月に予定している苫小牧港～敦賀港間内航 RORO 船定期航路の延伸による、2週連続境港～苫小牧港間試験輸送を説明。

【今後の境港流通プラットフォーム協議会の進め方について】（鳥取県）

平成32年度内航 RORO 定期船就航に向けた進め方を説明。

(2) 意見

物流関係者からはドライバー不足などの物流課題の解決や金融・経済界からは地域産業の活性化や新たな企業誘致等の創出につながる取り組みであり、大いに期待しているなどの意見が出されました。



